

アルバイト情報誌の専属代理店を手掛けるアントレプレナー(名古屋市)社長の荒川敬介さん。高校卒業後、友人のすすめで紹介された本をきっかけに読書にのめり込むようになったという。新規ビジネスのネタを探したり、人とは一味違った着眼点を養ったりと読書を通じて、自らのビジネススキルを磨く毎日だ。ビジネス書や自己啓発本、歴史小説までさまざまな分野を乱読する荒川さんに10冊を選んでもらった。

アントレプレナー社長

荒川敬介さん



「コマ切れの時間を無駄にたくない」として電子書籍も活用するという

「頑張れば成功できる」「自信に

『思考は現実化する』

ナポレオン・ヒル著



著者のナポレオン・ヒルが新聞記者だったころ、世界の鉄鋼王アンドリュー・カーネギーにインタビューをしたのを機に、成功する人に共通する思考法や哲学をわかりやすく解説したのが本書。累計の発行部数は全世界で7千万部を突破しており、自己啓発書の定番の一つ。荒川さんが本書を手にしたのは19才の時。地元高校を卒業後、何を仕事にしたいのかわからずと悩んでいた時に本書を手にした。「頑張れば社会で成功できる」ということを教えられた。本書を読んで勇気をもらったという荒川さん。「夢を実現するためには目標を具体的に設定することが大切だ」という学んだ」と振り返る。

著者が本著を執筆するに当たって参考にしたという偉人たちの自伝なども読み漁るなど、起業するきっかけになった思い出の書でもある。

ビジネスの判断時に指針

20世紀初頭に出版された人生哲学書の古典の1つ。本書には人生をより良く生きるためのヒントがちりばめられており、現在でも欧米を中心に読者を増やし続けているロングセラー本。「今のステージで頑張れない人が次のステージで本当に頑張れるのか。どんな時でもチャンスに備えて準備しておくべき、などといった成功するために必要な行動指針、道徳感を本書で学んだ」

行動指針の数々がやわらかい言葉で表現されている。

「自己啓発本は本質的にどれも同じで読み返すことは少ない」という荒川さんだが、本書に限っては今でもビジネスの判断に迷った時に本書を読み返すという。

『考えるヒント生きるヒント』ジェームズ・アレン著



行動指針の数々がやわらかい言葉で表現されている。

『ユダヤの商法』藤田田著



優れた経営者の行動参考に
マクドナルドを日本に広めた著者が、ユダヤ人のビジネスの仕方を紹介したのが本書。商売は男性よりも消費の主役である女性を狙え、などといった鉄則の数々が盛り込まれている。本書を読んで成功した経営者の着眼点や思考回路に舌をまいたという。本で学んだことをすぐ実践するという荒川さん。「取り引きが少なく、かつたくさんの人に喜んでもらえるサービスがユダヤ商法の鉄則。優れた経営者の行動を真似することで少しでも偉人たちに近づきたい」。

読書を通じて経営者としての人格やセンスを磨き続ける。

自己犠牲、義理、人情学ぶ

『武士道』新渡戸稲造著



「武士道はその表徴たる桜花と同じく、日本の土地に固有の花である」——こう説きおこした著者は武士道の特質や民衆への感化を考察し、武士道がいかにして日本の精神的土壌に開花、結実したのかを説き起こした。

海外を放浪した際、英国人から「日本人はどこで道徳感を学ぶのか」と聞かれて思い浮かんだのが武士道という言葉だった。だが、日本人の精神的支柱ともいえる武士道について、自分は一体何を知っているのか。帰国後、すぐに本書を手にしたという。

「自己犠牲の精神や義理、人情といった精神は生活の面でも仕事を上でもとても参考にになった」

アジア各国放浪経験 回顧

人はなぜ旅をするのか。何を求めてアジアを旅するのか。アジア各国を旅した著者がそこで出会った日本人たちにスポットをあて、その意味を模索したのが本書だ。

荒川さんは18才の時、インドをはじめアジア各国を放浪した経験を持つ。そこで目にしたのは日本では考えられない光景ばかり。世の中にはいくら努力しても、自分の力だけではどうしようもないことがあるということ。



厳しい現実を目の当たりにして「日本はチャンスをつかみやすい国だ」ということを実感した。日本でもっと頑張らなければ」と自分を奮い立たせたという。それから数年後、荒川さんはアントレプレナーを起業した。

- 『成功はゴミ箱の中に』(レイ・クロック、ロバート・アンダーソン共著)
 - 『レバレッジ・リーディング』(本田直之著)
 - 『いかにして自分の夢を実現するか』(ロバート・シュラー著)
 - 『通勤大学MBA戦略営業』(グローバルタスクフォース著)
 - 『男はちょっと硬派がいい』(川北義則著)
- 他にもこんな本